

■11月30日

日航、2015年新卒採用、地上職事務系65名、技術系20名、客室乗務員200名は契約社員

日航は29日、2015年度新卒採用計画を発表した。地上職は85人程度(14年度内定者は約80人)で、このうち事務系が65人程度、技術系が20人程度。

また、全日空が正社員採用を発表している客室乗務員は1年更新の契約社員として200人程度(同約270人)を採用する。

(時事ドットコム)11/29

http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013112900798 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=eco_30&k=2013112900798)

(JALプレスリリース)11/29

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201311/002740.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201311/002740.html>)

日航、カタール航空とコードシェア開始、12月3日より

日航は29日、ワンワールド アライアンスメンバーであるカタール航空と、2013年12月3日より カタール航空が運航する成田-関西=ドーハ線において、コードシェアを開始すると発表した。

また、同時にカタール航空は日航が運航する成田=新千歳・福岡線、羽田-関西線、伊丹-成田線、名古屋-成田線、成田-那覇線、新千歳-関西線、にて、コードシェアを実施する。

(JALプレスリリース)11/29

*出典: JALプレスリリース

【新規コードシェア便概要】<2013年12月3日(火)15時より予約販売開始予定>

便名	区間	出発	到着	運航曜日
JL7995/QR807	成田-ドーハ	22:30	04:30+1	毎日
JL7994/QR806	ドーハ-成田	01:25	16:55	毎日
JL7997/QR803	関西-ドーハ	22:40	05:10+1	毎日(注)
JL7996/QR802	ドーハ-関西	01:45	17:00	毎日(注)

注:12月24日以降、月木金土日のみ運航

AIRDO、2014年3月期、最終利益下方修正、前期比91%減-6000万円の見通し

AIRDOは29日、2014年3月期の単独最終利益が前期比91%減の6000万円になりそうだと発表した。従来予想の6億円(6%減)から大幅に下方修正した。格安航空会社(LCC)の台頭による競争環境のさらなる激化に加え、急激な円安や高値水準で推移する原油価格が経営環境へ影響で利用客が伸び悩んでいるとした。

13年4~9月期決算の最終利益は前年同期比39%減の10億円。円安などを背景に燃料の調達価格が上昇し事業費が14%増えたほか、路線拡大に伴うシステム改修費の負担増などで販管費が12%増え、利益を圧迫した。売上高は7%増の260億円だった。新規路線の開設などで提供座席数は4%増えたが、既存路線が伸び悩み全路線の利用客はほぼ横ばいにとどまった。

運航実績は、就航率は99.2%(前年同期99.1%)、定時出発率は93.2%(前年同期94.8%)、提供座席数は1,396千席(前年同期比4.1%増)、旅客数は1,011千人(前年同期比0.1%増)。座席利用率は、路線平均72.9%(前年同期75.5%)、主力の新千歳-羽田線の利用率は74.9%と0.8ポイント低下。他社の増便などで競合が激化した新千歳-仙台線は、37.7ポイント低い45.2%と大きく落ち込んだ。

収益改善策として、来年2月から新千歳-羽田線などまず6路線の普通運賃を引き上げ、通期の最終利益の黒字確保を見込む

(日経)11/29

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO63342450Z21C13A1L41000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO63342450Z21C13A1L41000/>)

(AIRDOプレスリリース)11/29

http://www.airdo.jp/company/press/pdf/2013/925_131129.pdf (->

http://www.airdo.jp/company/press/pdf/2013/925_131129.pdf)

*出典: AIRDOプレスリリース

なお、路線別の座席利用率は、次のとおりであります。

	前中間 会計期間	当中間 会計期間	前事業年度	備考
「札幌－東京」線	75.7%	74.9%	72.8%	
「旭川－東京」線	78.1%	76.1%	79.0%	
「函館－東京」線	65.9%	68.4%	68.4%	
「女満別－東京」線	79.3%	75.0%	77.0%	
「帯広－東京」線	78.4%	71.7%	73.9%	
「釧路－東京」線	—	72.4%	93.4%	平成25年3月開設
「札幌－仙台」線	82.9%	45.2%	78.8%	
「札幌－新潟」線	68.2%	55.2%	60.3%	
「札幌－福島」線	69.7%	65.5%	62.8%	
「札幌－富山」線	77.6%	78.3%	72.5%	
「札幌－小松」線	81.4%	77.2%	72.6%	
「札幌－岡山」線	—	68.0%	94.8%	平成25年3月開設
「札幌－神戸」線	—	75.6%	—	平成25年6月開設
路線の平均	75.5%	72.9%	73.5%	

(注) 座席利用率は当社販売分を表記しております。

スターフライヤー、SFJトレーニングセンターを案内

スターフライヤーは29日、昨年9月に完成した、自社訓練施設であるSFJトレーニングセンターをHP上に公表した。北九州空港がある北九州島内にある同トレーニングセンターは延べ床面積約 2,000 平方メートルの三階建。

A320フルフライトシミュレーター、タッチスクリーントレーナー、学習用機器/教室、キャビンモックアップや緊急脱出訓練用のスライドなどが設置されている。

詳細は以下URL参照ください。

http://www.starflyer.jp/trainingcenter/pdf/trainingcenter_jpn.pdf (->

http://www.starflyer.jp/trainingcenter/pdf/trainingcenter_jpn.pdf)

(スターフライヤープレスリリース)11/29

http://www.starflyer.jp/trainingcenter/pdf/trainingcenter_jpn.pdf (-> http://www.starflyer.jp/trainingcenter/pdf/trainingcenter_jpn.pdf)

県議会、キャセイパシフィック航空と協議、小松－香港線定期便開設

(TV金沢によると)

県議会が29日に開会し、谷本知事は、香港の航空会社が検討しているとされる小松との定期便について、航空会社と協議を進める考えを示した。

小松との定期便を検討しているのは、香港の「キャセイパシフィック航空」で、10月下旬、県議会の議員連盟が現地を訪れた際に、キャセイ側から打診された。谷本知事は、キャセイの日本支社に意向を確認するなど情報収集を進め、時期を見て自ら香港に向かう考えも示している。小松・香港便をめぐるのは、16年前に別の航空会社で定期便開設の動きがあったが、経済情勢の変化などで計画が頓挫した経緯がある。

(TV金沢)11/29

<http://www.news24.jp/nnn/news8718010.html> (-> <http://www.news24.jp/nnn/news8718010.html>)

タイ国際航空、バンコクから花巻空港、初のインバウンドチャーター

花巻市の花巻空港とタイのバンコク国際空港とを結ぶ国際チャーター便が12月3日と7日、往復で計4便運航される。タイから花巻空港への「インバウンドチャーター便」が就航するのは初めて。

同チャーター便は、岩手県信用金庫協会が主催し、両国の旅行会社の企画で花巻空港を利用した双方向チャーター便。運航会社のタイ国際航空が旅客機(286席)を1日当たり1往復運航。タイからツアー客約240人が盛岡、花巻、八幡平など東北の冬を体感する。復路で本県から約230人がバンコク市内などを訪問する予定だ。

(岩手日報)11/29

http://www.iwate-np.co.jp/cgi-bin/topnews.cgi?20131129_2 (-> http://www.iwate-np.co.jp/cgi-bin/topnews.cgi?20131129_2)

西鉄バス、ティーウェイ航空(LCC)就航に合わせ、佐賀空港-福岡直航バス増便

西鉄バスはティーウェイ航空の佐賀空港就航に合わせ12月20日から、佐賀空港と福岡市の天神、博多を結ぶ直行バスを週3往復増便する。上海便に対応している便と合わせ、直行バスは週6往復になる。運賃は佐賀空港から高速基山までが1100円、それ以外は1600円。

韓国の格安航空会社(LCC)ティーウェイ航空のソウル便は12月20日から水、金、日曜日に運航。団体旅行が多い中国に比べ、韓国は個人旅行が主流といい、福岡に足を伸ばす観光客の足として直行バスがアピール材料になると期待される。

(佐賀新聞)11/29

<http://www.saga-s.co.jp/news/saga.0.2590039.article.html> (-> <http://www.saga-s.co.jp/news/saga.0.2590039.article.html>)

チャイナエアライン、宮崎—台北線を増便、来年3月30日より、九州—台北間21便運航へ

チャイナ エアラインは29日、現在週2便で運航している宮崎-台北線を、2014年夏期スケジュール(2014年3月30日～)より1便増便し、週3便で運航すると発表した。増便されるのは月曜日、使用機材はボーイング737-800。

同社は2010年1月、運航を休止したエバー航空に代わって台北線に就航。毎週水、土曜日に158人乗りの中型機を使ってそれぞれ1往復運航し、これまでに約8万5000人が搭乗した。

今年度の搭乗率は74.2%(10月末現在)で採算ラインとされる7割を超え、09～12年度の平均搭乗率の70.1%を上回っている。

この増便によりチャイナ エアラインは週14便(毎日2便)運航の福岡-台北線、さらに週4便運航の鹿児島-台北線と合わせて、九州から台湾へ週21便を運航することになる。

(チャイナエアライン プレスリリース)11/29

<http://www.china-airlines.co.jp/news/1311/131129.html> (-> <http://www.china-airlines.co.jp/news/1311/131129.html>)

(読売新聞)11/30

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/miyazaki/news/20131129-OYT8T01516.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/miyazaki/news/20131129-OYT8T01516.htm>)

エールフランスの人員削減計画、多数派労組が同意／地上職員1,826人対象

(パリ時事によると)

欧州航空機大手エールフランスKLMが経営改善の一環として計画している人員削減で、傘下エールフランスの地上スタッフの3労組は26日、従業員1,826人を対象とする希望退職を通じた人員削減計画の受け入れを決め、社側との合意書に署名した。3労組は削減対象となる従業員の過半数を占めており、他の職種を含め計2,800人の削減を目指したリストラ計画が前進した。

(パリ時事)11/27

<http://www.jil.go.jp/kokunai/mm/kaigai/20131129.htm> (-> <http://www.jil.go.jp/kokunai/mm/kaigai/20131129.htm>)

韓国、FSAとLCC、収益に明暗

(中央日報によると)

韓国国内の大手航空会社と格安航空会社(LCC)の間で明暗が分かれている。大韓航空とアジアナ航空は今年上半期の実績が振るわなかった半面、LCCは“高空飛行”を継続した。

業界によると、大韓航空は今年7-9月期、前年同期比で売上高が3.4%減の1833億ウォン(約177億円)、営業利益が43.2%減の1601億ウォンとなった。アジアナ航空も状況は同じだ。前年同期に比べ売上高は3%減の1兆5192億ウォン、営業利益は41.8%減の634億ウォンと苦戦している。

一方、LCCの成長は加速している。済州航空は今年7-9月期、過去最大の実績となった。売上高は前年同期比32.3%増の1240億ウォン、営業利益は186.4%増の126億ウォンにのぼった。今年1-9月の累積売上高も前年同期比32.4%増の3303億ウォン、累積営業利益も286%増の193億ウォンとなった。

「赤字航空」と呼ばれてきたイースター航空とティーウェイ航空も今年初めて黒字に転換した。ティーウェイ航空は1-9月期の累積売上高が1257億ウォン、営業利益が63億ウォン。イースター航空も上半期、売上高1169億ウォン、営業利益4億2000万ウォンとなった。

LCCの躍進について業界は本格的に成長軌道に乗っていると分析している。2006年の済州航空をはじめ、8年間にわたり後発企業が次々と参入し、市場全体の規模が膨らんだのも理由だ。特に大手航空会社が背を向けてきた路線を開拓するなど差別化戦略を追求したのが成功要因に挙げられる。中国をはじめとする近距離国際路線と不定期便を増やしたのがその代表例だ。

済州航空は今年、中国13路線に就航し、イースター航空は航空機2機を新規導入し、中国不定期便を増やした。ジンエアーは札幌・沖縄路線の主導権を握っている。

LCCの中でも済州航空の成長は独歩的だ。国土交通部によると、LCCのうち累積搭乗客数1位は済州航空で、国内線と国際線を合わせて計346万人。250万人を輸送したエアプサンが2位だ。

売上高でも大きな差がある。今年1-9月期、済州航空の累積売上高が3303億ウォン、エアプサンが済州航空の62%に相当する2086億ウォンだった。ジンエアー、イースター航空、ティーウェイ航空が後に続いたが、済州航空の40-60%程度にすぎない。このために国内LCC市場は「1強(済州航空)2中(ジンエアー、エアプサン)2弱(イースター航空、ティーウェイ航空)構図」という声が出ている。

LCCは来年が「LCC成長元年」となると見込んでいる。見通しも悪くない。済州航空は今年、円安のため日本人観光客が前年同期比24%減少したが、7月以降は減少幅が鈍化し、来年からは以前の水準を回復するとみている。

済州航空の関係者は「現在、東京・大阪・名古屋・福岡など日本4大都市に定期路線があり、一日に2回ずつの往復運航体系を維持している」とし「持続的に路線の確保を検討している」と話した。

ティーウェイ航空は大韓航空とアジアナ航空だけが就航する大邱空港に目を向けている。来年3月30日から大邱-済州の定期便就航に動く一方、大邱発の東南アジア路線も開設する予定だ。

(中央日報)11/29

<http://japanese.joins.com/article/873/178873.html?servcode=300§code=320> (-> <http://japanese.joins.com/article/873/178873.html?servcode=300§code=320>)

ライオンエアー(LCC)、アリタリア航空-ハブ空港の拠点化計画

アイルランドの格安航空会社(LCC)ライオンエアー・ホールディングスは長い間、イタリアでアリタリア航空の本拠地を間借りしていた。今回、経営難にあえぐアリタリアのハブに拠点を設けようとしている。成長を維持する戦略にシフトしていることを示す動きだ。

今週マイケル・オリリー最高経営責任者は記者団に対し「すでに主要空港以外の空港への就航は果たしている」と述べたという。WSJが報じた。

旅客数で欧州最大のLCCであるライアンエアーは、航空他社が集客強化に努める欧州の主要空港を利用するビジネス旅行客を取り込みたい意向。(現在ビジネス旅行で利用した乗客の割合は約20%とイーージェットの10%は上回っている。)イタリアのローマのフィミチーノ空港やブラッセル国際空港を新たな拠点にするほか、今後はアムステルダムのスキポール国際空港もハブにすることを検討している。これはライアンにとって新しい方向性をしめすものである。

ライアンエアーは今まで補助的な空港を運航することで低価格運賃と実用本位のサービスを提供する事業モデルを築いた。多くの場合、小規模空港から巧みに好条件を引き出すことが成功につながった。低価格でレジャー客を引き付け、遠隔の地にある空港の不便さを補った。

同社は今週、ローマ・フィミチーノ空港ーブラッセル・バルセロナ間を毎日運航するほか、イタリア国名で新たに3路線の運航を開始し、合計9つの国内路線に参入すると明らかにした。今後更に大規模空港への運航を開始する計画で、殆どの欧州の主要空港と交渉をおこなっているという。

(WSJ)11/29

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304471504579227051122453222.html> (->
<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304471504579227051122453222.html>)

深セン空港、新ターミナル運用開始

深セン空港の新しいCターミナルビルが28日にオープンした。85億元(約1430億円)をかけた新ターミナルは、中国南部の深セン市が急速な地域経済の拡大に伴う旅客需要を取り込もうとしている。

このターミナルビルは年間の旅客機離着陸数が約37万5000便、旅客輸送数は4500万、貨物の取扱い量は240万トン。また、面積はこれまでのAとBのターミナルビルの総面積より広く、運送保障能力が大きく高まった。

(CRJonline)11/29

<http://japanese.cri.cn/881/2013/11/29/241s215266.htm> (-> <http://japanese.cri.cn/881/2013/11/29/241s215266.htm>)

(WSJ)11/30

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304471504579226963463577496.html> (->
<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304471504579226963463577496.html>)